

ぎょうだ  
**歴史系譜** (185)  
**行田の近代化遺産** 18

新町自治会集会所

今回紹介するのは、行田13-31に所在する新町自治会集会所です。

新町自治会集会所は、現在の埼玉懸信用金庫の前身である忍町信用組合の店舗として大正11年（1922）4月11日に棟上げされ、同年8月6日に開店しています。本屋は腰羽目板付下見板コニアル様式の木造2階建ての洋館で、左右対称のデザインと縦に長い大きな窓が印象的です。屋根は腰折屋根で、当初はスレート葺きでしたが、現在は瓦葺鉄板葺腰折屋根になっています。棟札によると建築主は忍町信用組合長時田啓左衛門以下10人、設計監督は吉澤清、請負人棟梁は細谷活平でした。

忍町信用組合は、旅行をきっかけとして大正4年（1915）7月に共楽会の名で積み立てを始めたことから始まりました。それが発展して大正7年（1918）6月に北谷貯金組合となり、同年7月には時田啓左衛門、後に名誉市民となる村上義之助らが中心となって法人格を取得、忍町北谷信用組合になりました。大正9年（1920）4月には忍町信用組合に名前を改め、さらなる業績拡大をもくろみ、行田学校跡地であるこの場所に、土地購入費5千835円、建築費9千816円をかけて店舗を建設したのです。

忍町信用組合には、原料卸売商が足袋商店から受け取った手形や足袋商店が全国各地の卸売業者や小売業者から受け取った手形などが多く持ち込まれ、組合で手形の割引が行わ



新町自治会集会所

れました。こうした足袋関連の企業間の信用決済業務を多く行うことで、信用組合と足袋産業は深く関わり合いを持ちながら発展していきました。昭和初期の恐慌のとりつけ騒ぎのときには、札束を店内に積み上げて信用維持に努め、昭和22年（1947）に埼玉懸信用組合へと統合されました。

この建物は、こうした行田の金融と足袋産業の歴史を伝えるとともに、行田では先駆的な下見板コニアル様式の建物として貴重な歴史的建築物であると思われます。

（文化財保護課 中島洋二）

★ **キラリ 元気** ★ No.77

ピーマンは手軽に食べられる緑黄色野菜です。カロテン、ビタミンC、ビタミンEを含み細胞を活性化させ美肌効果や風邪予防になります。

抗酸化作用もあり、がん予防や老化防止に有効です。コレステロールの吸収を抑え血液を浄化するクロロフィルも含まれるので、コレステロールが気になる人にもお勧めです。このあえ物はレンジで簡単に調理でき、おつまみやお弁当のおかずにもぴったりです。

材料（2人分）

ピーマン…4個 ハム…2枚 マヨネーズ…大さじ2 すりごま…大さじ1

作り方

- ①ピーマンは半分に切り、へたと種を取り5mm幅の千切りにする。電子レンジで2分加熱し冷ましておく。
- ②ハムは5mm幅の千切りにする。
- ③マヨネーズとすりごまを混ぜてあえる。

…レンジで2分…

ピーマンとハムのゴママヨネーズあえ



栄養成分（1人分）

エネルギー 137kcal たんぱく質 3.4g 脂質 12.0g  
 炭水化物 4.1g 食塩相当量 0.5g

（社）埼玉県栄養士会 行田・羽生の会  
 （旧加須保健所管内行田分室地域活動栄養士会）

今月の表紙

6月27日、第19回行田市綱引き大会がグリーンアリーナで行われました。全75チームが低・中・高学年の部に分かれて行われた本大会。どちらのチームも一歩も譲らぬ手に汗握る試合展開に、会場の応援もヒートアップしていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています